

令和4年度 広島市公文書館パネル展

絵はがきからたどる広島あの頃 - 市街南部 -

展示番号	資料名	資料の概要
1	(広島名所)御幸橋【絵葉書】	昭和6(1931)年に広島市内初の軌道併用橋として架け替えられた2代目の御幸橋。橋の中央に路面電車が見える。初代に比べると直線的なデザインが施されている。昭和(戦前)期発行
2	広島御幸橋【絵葉書】	明治18(1885)年に架けられた初代の御幸橋を西詰めの千田町から東に向かって撮影したもの。橋の欄干は植物の蔓を思わせる曲線で飾られている。大正期発行
3	広島市宇品御幸通【絵葉書】	行軍する兵士と見守る市民の姿を写したもの。道の両側の家屋の軒先には日の丸が掲げられている。大正～昭和期発行
4	(宇品)御幸通一丁目【絵葉書】	御幸通り最南端の御幸一丁目を南から北に向かって撮影したもの。左側の食料品店の店舗前には、御幸通りに実家があった37代横綱安藝ノ海の本名「永田節男(ながたかお)」の幟がはためいている。昭和8(1933)年発行
5	広島市翠町土地区画整理組合地区整理確定図	翠町では、昭和10(1935)年3月、区画整理組合が結成され、同12年にかけて区画整理が行われた。「整理確定図」とあるが、途中段階のもの。広島市翠町土地区画整理組合 昭和11(1936)年作成
6	中国缶詰製造所【写真】	中国缶詰製造所は、昭和8(1933)年、翠町に創業した缶詰工場。同製造所では獣肉・魚貝・野菜(そさい)・果実等の缶詰を製造していた。昭和11(1936)年8月31日 渡辺襄撮影
7	翠町にて おたまじゃくし採り【写真】	蓮田の畔にしゃがみ、おたまじゃくしを捕まえようとする子供たちを撮影したもの。蓮田が広がっているのが分かる。昭和11(1936)年5月31日 渡辺襄撮影
8	広島女子専門学校を望む【写真】	翠町から南方を撮影したもの。写真中央には皆実新開の干拓堤防が写っている。堤防越しに見える建物が広島女子専門学校(現広島県立広島大学)。昭和10(1935)年5月20日 渡辺襄撮影
9	千田貞暁銅像	宇品港築港を主導・完成させた広島県知事千田貞暁の銅像兼記念碑。大正4(1915)年9月に、その功績を伝えるため建てられた。現在ここは児童公園となっている。(昭和4(1929)年 水谷忠次郎編・発行『似島陸軍検疫所 広島・宇品・名勝 記念写真帖』より)
10	宇品陸軍糧秣支廠 廠舎【絵葉書】	宇品陸軍糧秣支廠の廠舎。右側の煉瓦造りの建物が缶詰工場(現広島市郷土資料館)。宇品陸軍糧秣支廠は、明治30(1897)年3月、宇品町海岸に創設され、兵士の食料や軍馬の秣(まぐさ)等を調達・製造・貯蔵して、軍への補給を行っていた。大正15(1926)年発行
11	宇品陸軍糧秣支廠 搗精工場【絵葉書】	宇品陸軍糧秣支廠の搗精(とうせい)工場。この工場では、主食とする米や麦の品質を保つため、購入した玄米や玄麦を必要のつど搗精し、精米や精麦にして戦地等へ送っていた。大正15(1926)年発行
12	陸軍作業庁工員等募集二関スル件	昭和12年9月22日付けの広島県学務部長から関係町村長に宛てた通知。宇品陸軍糧秣支廠で従事する陸軍作業庁の工員募集の周知等を依頼している。大林村(現安佐北区大林地区)の昭和12(1937)年の庶務一件綴に綴られていたもの。
13	錦華人絹株式会社広島工場全景【写真】	錦華人絹株式会社は、昭和8(1933)年2月に設立され、宇品町(現南区宇品東五丁目)に工場を置いた。設立当時は敷地約12万坪を擁したという。翌年操業を開始し、その生産能力は人絹(人造絹糸の略。レーヨンとも呼ばれる)日産10トンであった。これは、昭和(戦前)期に作成されたイラスト。
14	錦華人絹広島工場全景・工場歌【絵葉書】	工場歌入りの絵葉書。写真は工場を南西から撮影したもの。昭和(戦前)期発行
15	錦華人絹 工場	『市政五十周年記念写真帖』に掲載された写真。名所や特産品に並んで、錦華人絹広島工場が紹介されている。(昭和16(1941)年 広島市発行『市政五十周年記念写真帖』より)
16	錦華人絹広島工場 求人ポスター	錦華人絹広島工場の求人ポスター。公認青年学校や寄宿舎等の設備を備えていること、工場から離れた可部職業紹介所が採用検査会場となっていることなどから、広く人材を求めていたことが分かる。昭和(戦前)期
17	宇品線【写真】	宇品新開を南東角から南西へ向かって撮影したもの。左側の赤十字の旗が掲げられた建物は、広島陸軍予備病院の関連施設として宇品港付近に設けられた宇品患者集会所。明治27～28(1894～1895)年頃撮影

展示番号	資料名	資料の概要
18	最新実測広島市街地図(部分)	広島駅から宇品駅まで宇品線の経路をたどると、兵器支廠や被服支廠などの軍事施設や工場が線路に沿って設けられていることなどが分かる。(大正15(1926)年 広島市発行『第10回 広島市勢一斑』附属地図より)
19	宇品凱旋館寄附金募集ノ件	市からの諸達・通牒の町内への周知等の役割を担っていた草津南町(現西区草津南)総代から評議員に宛てた文書。宇品凱旋館建設のため各戸を訪問して寄附金募集を行うことなどが記されている。宇品凱旋館建設会が作成した「宇品凱旋館建設二関スル趣意書」も添付されている。昭和12(1937)年の草津南町総代文書「事務書類綴」に綴られていたもの。
20	宇品凱旋館 全景【絵葉書】	宇品凱旋館は昭和14年(1939)年に完成。これは南西から見た宇品凱旋館の外観図。昭和14(1939)年発行
21	宇品凱旋館 休憩室【絵葉書】	絨毯が敷かれ、革張りのソファーや布張りの椅子が置かれた休憩室の様子。昭和14(1939)年発行
22	宇品凱旋館 大休憩室【絵葉書】	大休憩室の内部を撮影したもの。前方にステージと緞帳が見える。昭和14(1939)年発行
23	宇品凱旋館 稿軍状況【絵葉書】	宇品凱旋館玄関前で白い割烹着を着け、兵士をもてなす愛国婦人会の女性、ふるまわれた湯茶を口元に運ぶ兵士の様子。昭和14(1939)年発行
24	宇品凱旋館	宇品凱旋館の正面玄関と車寄せの写真。車寄せの分厚い庇、カーブした縁石と石造りの特徴的な装飾が写っている。(昭和16(1941)年 広島市発行『市政五十周年記念写真帖』より)
25	宇品港基礎録 明治17年	築港工事着手直前に作成された資料。最初に当時の広島区長、栗原幹が広島区民(現在の市民)に向けて築港の必要性を訴えた「宇品築港意見書」(明治17(1884)年1月付)、続いて築港に関する工事の目論見書、経費の明細書等、最後に宇品築港発起人々名が綴られている。いずれも活版印刷。中ほどに築港の概略図(手書き)が挟まれている。表紙には表題と発起人の一人である渡部四郎三郎の名が筆で書かれている。
26	宇品港【絵葉書】	宇品島(南区元宇品町)から東に向かって宇品港に停泊する輸送船等を撮影したパノラマ写真(「宇品港」其1~其3)。明治27(1894)年撮影 大正期 広島口〇堂発行
27	宇品港棧橋【絵葉書】	商用棧橋を岸壁から南方に向かって撮影したもの。写真左部分に天狗雁木(階段状の棧橋)が写っている。大正期 広島口〇堂発行
28	広島宇品港棧橋【絵葉書】	元は27の「宇品港棧橋」と同じ写真だが、軍関係施設がある島を白く塗りつぶす加工が施されている。大正5(1916)年 広島口〇堂発行
29	広島宇品港市営棧橋【絵葉書】	宇品港市営棧橋を海上から陸に向かって撮影したもの。写真中央の2階建ての建物は広島水上警察署。昭和(戦前期) 広島口〇堂発行
30	広島市大観 宇品港 広島名勝【絵葉書】	宇品港に浮かぶ大小さまざまな帆船を撮影したもの。写真右の2隻は係留されている。昭和(戦前期) 絵画研究会発行
31	広島宇品港【絵葉書】	宇品港の海上から宇品島に向かって撮影したもの。正面のこんもりした山は宇品山(現元宇品)。昭和(戦前期) 広島口〇堂発行
32	向宇品海水浴場【絵葉書】	向宇品には明治20年代半ばごろから海水浴場が設けられたが、時代とともにその位置や名称は変わった。写真の向宇品海水浴場は、明治23(1890)年に宇品島西岸に設置された。昭和(戦前期)発行
33	向宇品観音堂全景	観音寺は、臨済宗の寺院。安土桃山時代に開かれたと言われている。同寺は港を見下ろす位置にあり、正面に金輪島、眼下には港に出入りする船が見えることから、「眺望絶佳」と言われた。椿の名所としても知られている。(昭和4(1929)年発行 水谷忠次郎 編『似島陸軍検疫所 広島・宇品・名勝 記念写真帖』より)
34	観音禅院全景【絵葉書】	観音寺の本堂を正面から撮影したもの。昭和9(1934)年発行

展示番号	資料名	資料の概要
35	昭和産業博覧会第三会場(宇品) 海軍館と水族館【絵葉書】	昭和4(1929)年に開催された広島市主催昭和産業博覧会の絵葉書。第三会場の軍艦を模した外観の海軍館と向宇品別世界の水族館が写っている。昭和9(1934)年発行
36	(宇品)向宇品別世界【絵葉書】	元宇品別世界にあった水族館。別世界は大正11(1922)年に株式会社宇品別世界が設置したりゾート施設。水族館の他にプールや海水浴場もあった。昭和8(1933)年発行
37	広島市主催昭和産業博覧会 会場配置図	広島市主催昭和産業博覧会の第一会場(西練兵場)、第二会場(比治山)、第三会場(向宇品)それぞれの施設配置図。第三会場の配置図には、宇品山の西側に海軍館、プール、水族館、空海食堂、休憩所、売店等の施設が細かく書き込まれている。(昭和5(1930)年 広島市発行『広島市主催昭和産業博覧会記念誌』より)
38	瀬戸内海 安芸似の島【絵葉書】	似島は広島港の約3キロメートル南に浮かぶ島。島の形が富士山に似ていることから「安芸小富士」とも呼ばれている。大正期発行
39	安芸似島陸軍検疫所 棧橋【絵葉書】	似島陸軍検疫所の未消毒棧橋。上陸した兵士が荷物や銃を置き、腰を下ろしている様子が写っている。大正9(1920)年 水谷発行
40	似ノ島陸軍検疫所 銃ノ日光消毒【絵葉書】	帰還兵が使用していた銃剣や装備を日光消毒している様子を写したものの。大正9(1920)年 水谷発行
41	安芸似島陸軍検疫所 蒸汽消毒【絵葉書】	衣服や荷物が入った専用の籠と蒸気消毒装置。籠の下には消毒する荷物等の運搬に使用していた運搬用レールが写っている。大正9(1920)年 水谷発行
42	安芸似ノ島陸軍検疫所 浴後休憩【絵葉書】	入浴後、浴衣に着替えて休憩室でくつろぐ兵士を撮影したもの。検疫所では、帰還先へ疫病等を持ち込まないようにする対策の一つとして、入浴して体を清潔に保つことも徹底された。大正9(1920)年 水谷発行
43	『似の島陸軍検疫所 広島・宇品・名勝記念写真帖』表紙・目次	検疫所内の様子と広島の名所の写真を集めた写真帖。前半では検疫所での検疫手順や施設等を紹介した写真が、後半では、宇品地区と市内中心部の史跡、繁華街に至る名所がそれぞれ順に紹介されている。昭和14(1939)年 水谷忠次郎編・発行
44	宮島広島名所交通図絵(部分)	表面は、吉田初三郎が描いた広島市街から宮島までの鳥瞰図。裏面の「広島瓦斯電軌沿線名所案内」では、広島電軌軌道(現在広島電鉄)の市内線、宮島線沿線の名所が写真入りで紹介されている。昭和3(1928)年 広島瓦斯電軌株式会社発行
45	大日本職業別明細図 大広島市	昭和14(1939)年の広島市内の市街地図。官公庁、学校、商店、社寺等の名称が詳細に記載されている。昭和14(1939)年 東京交通社発行
46	広島市街明細地図 明治20年(部分)	明治20(1887)年の市政施行前の広島区時代の地図。旧城下に比べると、隣接する国泰寺村、皆実村、宇品町などには幹線道路しか記入されておらず、開発途上であったことが分かる。宇品港から横浜や神戸など日本各地までの距離も書かれている。明治20(1887)年 浅井馨編・松村善助発行
47	最新実測広島市街全図 明治27年(部分)	日清戦争勃発後に発行された市街地図。地図には山陽鉄道や広島駅から宇品港に延びる宇品線の線路が記載されている。広島城内には「師団本営」の文字が見える。明治27(1894)年 鈴木常松発行
48	最近実測広島市街地図 大正15年(部分)	大正15(1926)年頃の広島市街地図。学校、官公庁、社寺、工場(ガス・缶詰・ソーダ、ゴム等)、商店等の施設や軌道等が書き込まれている。広島湾内には牡蠣養殖、海苔養殖、魚介類の名称など水産業に関する情報も書き込まれている。大正15(1926)年 広島市編・発行『第10回 広島市勢一斑』附属地図
49	広島市街地図 昭和10年(部分)	昭和10(1935)年の広島市街地図。皆実町南部の区画整理が進んでいるのが分かる。京橋川河口の防波堤や河川修築の予定が赤で書き込まれている。昭和10(1935)年 広島市編・発行

※ 絵葉書の発行年について

- ・絵葉書の袋、検閲日または押印されているスタンプ等で年を特定できるものは、その年を採用しています。
- ・詳細な年次が不明であり、当館が推定したものについては、「明治」、「大正」等と大まかに記しています。
- ・昭和は、昭和20(1945)年8月15日以前を戦前、16日以降を戦後としています。

なお絵葉書は、古い写真を使用して作成しているものもあることから、作成時期と撮影時期は必ずしも一致しません。